

IMF、景気回復に慎重な見方

ポイント① 今年の成長率見通しを上方修正

10月13日発表のIMF(国際通貨基金)の世界経済見通しによれば、世界の実質GDP(国内総生産)成長率は2020年には-4.4%と、6月時点の見通しの-5.2%（国別ウェイト変更後）から上方修正されました。

各国で新型コロナウイルスの感染拡大に対する経済活動制限措置が緩和されたことや、財政・金融両面からの景気下支え策が打ち出されたことで世界景気は底を打ち、回復に向かっているものと見られます。

ポイント② 来年の経済成長率は下方修正

ただ、来年の世界経済成長率は6月の5.4%から5.2%へ下方修正されました。2022年以降、徐々に減速し、2025年には3.5%と、新型コロナ感染拡大前の中長期トレンドに戻ると予想されています。

リーマンショック後の景気循環と比べると、2020年の世界経済成長率の落ち込みは2009年よりずっと深くなる一方、2021年の反発は2010年よりやや小さいと予想されています。世界的に新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、ワクチンや治療薬の開発の進行にも不透明感があることなどが、IMFの景気回復に慎重な見方の背景にあるようです。

ポイント③ 低インフレ、低金利が長期化

景気回復が緩やかなものに留まる分、IMFは先進国を中心に低インフレが続くと予想しています。各国の金融政策は緩和姿勢が長引いて金利は低水準で推移すると見られます。低金利下でリターンを求める投資家の資金は株式などのリスク資産の投資に向かい、資産価格は上昇しやすいでしょう。景気回復にはあまり勢いがいい中で株価が上昇する傾向が、今後も続きそうです。

図1：国・地域別実質GDP成長率見通し

	(前年比、%)		
	2020	2021	2022
世界	-4.4 (0.8)	5.2 (-0.2)	4.2
先進国	-5.8 (2.3)	3.9 (-0.9)	2.9
米国	-4.3 (3.7)	3.1 (-1.4)	2.9
ユーロ圏	-8.3 (1.9)	5.2 (-0.8)	3.1
日本	-5.3 (0.5)	2.3 (-0.1)	1.7
新興・発展途上国	-3.3 (-0.2)	6.0 (0.2)	5.1
中国	1.9 (0.9)	8.2 (0.0)	5.8
インド	-10.3 (-5.8)	8.8 (2.8)	8.0

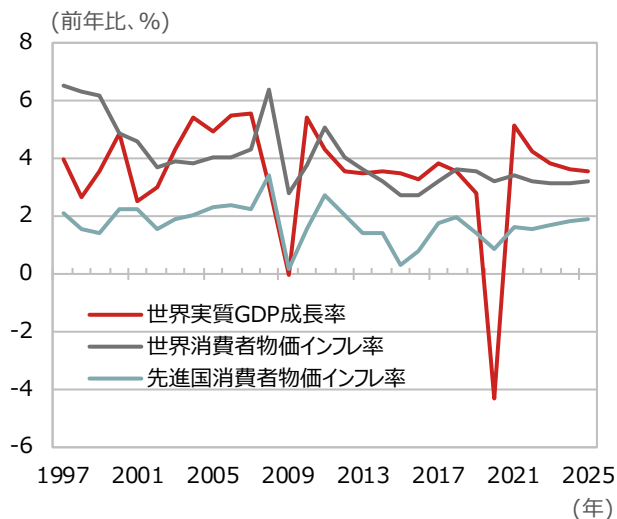
(注) IMFによる予測

(注) ()内は2020年6月時点見通しからの修正幅。今回、国別のウェイトが変更されたため、6月見通しを新ウェイトで調整した上で修正幅が計算されている。

(出所) IMF「World Economic Outlook Database, October 2020」(<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/weo-database/2020/October>)より野村アセットマネジメント作成

図2：実質GDP成長率と消費者物価インフレ率

期間：1997年～2025年、年次



(注) 2020年以降はIMFによる予測

(出所) 図1と同じ

重要
イベント

10月19日 中国GDP (7-9月期)
10月29日 米国GDP (7-9月期、速報値)
10月30日 ユーロ圏GDP (7-9月期、速報値)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。